

■道慈 僧。日本三論宗第三伝。大陸からの新知識で「日本書紀」完成に貢献、国分寺モデルプラン作成も。

どうじ

・・・・・・ 674= この頃誕生。大和国添下郡の人。俗姓は額田氏。

・・・・・・ 683= 9歳 :

幼くして出家し、聡敏にして学を好み、その英材明悟ぶりは誰しも認めるところであったという。

天武天皇没 ・ 686=12歳 :

・・・・・・ 692=18歳 :

大宝律令 ・ 701=27歳 : 入唐し、  
持統天皇没 ・ 702=28歳 : 長安の西明寺に止住。

学問修行の様子については、「続日本紀」に「渉く經典を覽、尤も三論に精し」とあり、「懷風藻」には「明哲を歴訪し、講驛に留連す。妙しく三蔵の玄宗に通じ、広く五明の微旨を談ず」と記す。さらに唐の宮中で、「仁王般若經」を講ずべき義学の高僧百人のなかに選ばれたとも伝える。

平城京遷都 ・ 710=36歳 :

養老律令 ・ 718=44歳 : \*帰国した。道慈に対する評価には、「懷風藻」に「性甚だ骨鯁、時に容れられず」という面もあったが、その学問については、「続日本紀」卒伝に「積門の秀たる者」といい、藤原不比等の顧問となって、  
・・・・・・ 719=45歳 : 詔で「戒珠満月を懐くがごとく、慧水槍漠に写すがごとし」と、食封50戸を賜わった。  
藤原不比等没 720=46歳 : この年完成した「日本書紀」編纂にも参加したといわれる。

・・・・・・ 728=54歳 : 長屋王願経の大般若經に名が見える。  
長屋王の変 ・ 729=55歳 : \*律師に任ぜられ、仏教政策の推進に大きな役割を果たす。大安寺の平城京移転に尽力、

風土記成立 ・ 733=59歳 : 戒師招請の使を派遣したことや、  
・・・・・・ 734=60歳 : 得度の最低条件を示したことは、かかる思いをもった道慈の提唱になるものと思われる。

・・・・・・ 736=62歳 : 扶翼童子6人を賜わり、  
藤原四卿没 ・ 737=63歳 : 上表して、災害をさけるために諸国の調庸各3段の物をとって布施となし、僧百50人を請じて「大般若經」を転読し、これを恒例としたいと願い出て許される。  
・・・・・・ 739=65歳 : 大極殿で「金光明經」を講じる。

国分寺建設詔 741=67歳 : \*この年詔された国分寺のモデルプランの作成者ともいわれる。  
墾田永世法 ・ 742=68歳 : 10代の天皇のために、嚴導七処九会図像を制作し、大安寺に施入。  
「愚志」を著し、唐の仏教に比して虚設の多い我が国仏教界に批判を加え、僧尼のあり方などについて論じる一方、長屋王の招宴を辞退した漢詩が「懷風藻」に収められている。  
・・・・・・ 744= 70歳 : 入滅した。